

ホールに響く美しいハーモニー



市内小学校16校の4年生が一堂に会した「田村市小学校童謡・唱歌音楽祭」が11月19日、市文化センターで開かれました。

「田村の四季を歌おう」をテーマに、「春の小川」「うみ」「赤とんぼ」「たき火」など四季折々の童謡・唱歌16曲が披露され、美しいハーモニーがホール内に響き渡りました。また、保護者などから寄せられた童謡・唱歌にまつわるエピソードが、田村市の四季の風景や子どもたちの集合写真の映像と併せて紹介されました。吉田いくよ氏（ヴォイス・プロ代表）の朗読による「つりばしわたれ（長崎源之助作）」など絵本や詩の読み聞かせも行われ、多くの聴衆者を魅了しました。

最後は保護者や高齢者学級の参加者などが、子どもたちと一緒に「ふるさと」を大合唱し、田村市に対する思いを一つにしました。

この音楽祭は、童謡・唱歌の美しいメロディーと歌詞から先人のメッセージを学び、ふるさと田村市を思う心などを育むことを目的に、市教育委員会の主催で毎年、行われています。

大田区で田村市をPR



OTAふれあいフェスタが11月2・3日、東京都大田区平和島の平和の森公園で開かれました。両日共に天候に恵まれ、多くの方が来場し、にぎわいました。

田村市からは商工観光課と農林課、滝根観光振興公社、㈱まちづくりふねひきが参加し、市の農産物や特産品などを販売しました。来場者の反応もよく、「昨年買って食べたおいしかった」と言って、農産物を買求める方もいました。

また、東京在住の東京ふねひき会会長や役員に協力いただき、キャンペーンクルーと一緒に観光や産業団地の案内パンフレットを配布しました。多くの方に魅力ある商品を紹介でき、元気な田村の姿をPRできました。

親子が伝統文化に親しむ



毎年恒例の「正月飾り作り・もちつき」が12月6日、市歴史民俗資料館で行われました。

子どもと保護者など約100人が参加し、船引町ボランティア会の指導で、わらを使った正月飾り作り（しめ縄作り）に挑戦しました。また、千本ぎねを使ったもちつきも行われ、日本の伝統文化に親しみました。



鹿俣潔さんが瑞宝双光章を受章

元田村市副市長の鹿俣さんが11月6日、市役所を訪れ、「瑞宝双光章」の受章を富塚市長に報告しました。

鹿俣さんは、昭和39年に船引町職員として奉職し35年間勤めました。その後、平成11年からは船引町収入役、15年からは船引町助役、さらに合併後の平成17年から21年までの4年間は田村市の初代副市長を歴任するなど、地方自治の振興発展に対する功績が認められました。



坂本榮市さんが旭日単光章を受章



昭和54年から約30年間、都路村選挙管理委員と委員長を歴任した坂本榮市さん（都路町）が、秋の叙勲で「旭日単光章」を受章しました。坂本さんは委員長のとき、選挙で棄権する有権者を少しでも少なくするため棄権防止の啓発運動に力を注ぎ、高い投票率につなげました。県知事からの伝達式は11月6日、県庁で行われました。

受賞報告のため都路行政局を訪れた坂本さんは「長年、こつこつとやってきただけなのに、このような立派な章を頂いて、びっくりしている」と喜びを述べました。

松崎清春さんが瑞宝単光章を受章

松崎清春さん（大越町）が11月12日、市役所を訪れ、「瑞宝単光章」受章の喜びを富塚市長に報告しました。松崎さんは昭和52年に大越町消防団に入団し、会社勤めの傍ら36年間にわたり消防団員として地域の安全に努めました。平成17年には市消防団大越地区隊長に就任し、女性消防団の設立にも携わり、昨年3月に退団しました。松崎さんは「職場や家族の理解のおかげで消防団活動を続けることができた。地域の安心・安全に微力ながら貢献できて良かった」と述べました。



加藤安一さんが旭日単光章を受章



元船引町議会議員の加藤安一さんへの高齢者叙勲「旭日単光章」の授与が決まり、伝達式が11月7日、自宅で行われました。県中地方振興局の橋本局長から加藤さんに勲章と勲記が手渡され、富塚市長が立ち会いました。

加藤さんは、昭和58年から平成15年までの5期20年にわたり船引町議会議員を務めました。その間、議会運営委員長などを歴任し、地方自治の発展に貢献されました。